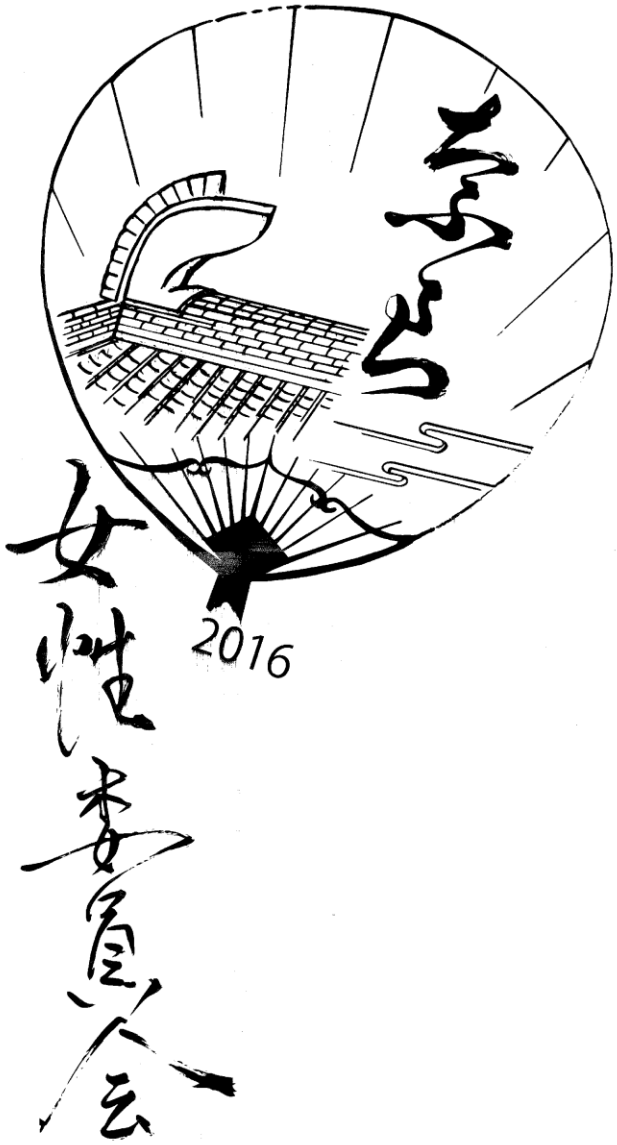
ラーブ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会　女性委員会
2016 年　春号
第 86 号



全建女「奈良」ロゴマーク

目　次

■　全建女（奈良）案内広告

■　全建女（奈良）準備部会各班報告

参加のお願い・講演班・記録班	本保　万貴子・岩城　由里子	１ページ
会場班	山本　規子	２ページ
懇親会班	上田　壽子	３ページ
見学会班	武市　啓子	４ページ

■　女性委員会見学会『和室三昧の一日旅』　野村　厚子　５ページ

■　私と建築　山野　千恵　６ページ

■　今後の事業予定・編集後記　７ページ

「未来へつなぐ居住環境づくり」
“日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見”
平成 28 年　7 月 22 日（金）～23 日（土）

１日目（会場：奈良女子大学）

〇全国女性委員長（部会長）会議　午前 10:30～12:30

〇全国女性建築士連絡協議会　午後 01:00～05:30

・基調講演「日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見」　講師；渡邊光雄氏

・パネルディスカッション

・被災地報告　岩手県、宮城県、福島県、茨城県から

※　交流会（会場：ホテル日航奈良）　18:30～

２日目（会場：奈良春日野国際フォーラム甍）午前　09:00～12:20）

・８分科会　テーマ　①防災への取り組み　②エネルギーと暮らし　③歴史的建造物と建物再生　④環境共生住宅～住み継ぐ～　⑤景観まちづくり　⑥子どもと住環境　⑦高齢社会と福祉住宅　⑧二地域居住(仮)

・全体会　分科会報告、アピール、全国大会大分大会の案内　他

※　エキスカーション「大人の修学旅行」（昼食付）13:00～　　開催　10 コース

サブテーマ“日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見”について

近年、日本人の生活習慣が変化したことにより、地域の環境に即した伝統的な住まいに暮らす人が減少しています。和室や和の要素を改めて見直すことで、日本人らしい豊かな生活文化を再発見することができるのではないでしょうか。先人の築いた知恵と工夫を見つめ直し、美しい日本の住まいのあり様を次の世代に引き継ぐことが、今、私達にとって重要な課題ではないでしょうか。
奈良県南部吉野地方は室町時代より続く林業地で、ブランド材吉野杉・吉野桧の生産地です。木材等の自然素材を生かしたこれからの和の住まいを、奈良の地で考えたいと思います。

２日目のエキスカーション（自由参加）では、「大人の修学旅行」と題して歴史的建築物見学及び奈良のまち歩きコースを多数ご用意しております。“大和は国のまほろば　古き光はなおも爛然たり。”渡来人よりもたらされた文化の礎が、今もなお輝き残る奈良の地をみなさまにご堪能いただきたく思います。
多くの方のご参加を心よりお待ち申し上げております。

公益社団法人　日本建築士会連合会女性委員会
一般社団法人　奈良県建築士会女性委員会

第26回全国女性建築士連絡協議会（奈良）（通称）「全建女(奈良)」　参加のお願い

女性委員会　委員長　本保万貴子

今年の7月22日(金)・23日(土)に開催される第26回全建女（奈良）まで3ヶ月を切りました。

平成27年2月27日に東京で開催された全国女性委員長(部会長)会議で「平成28年度は奈良で開催したい」と狼煙を上げてから1年2ヶ月。平成27年6月15日の第1回全建女準備部会会議から10ヶ月余り、紆余曲折を経て、「奈良での全建女開催は認めない」という不可解な都市伝説に立ち向かいながら、主催者である日本建築士会連合会女性委員会と協議を重ね、やっとプログラム決定まで漕ぎ着けました。ゴールデンウィーク開けには全国建築士会にて、開催案内される予定です。

全建女準備部会は、講演班、会場班、懇親会班、見学班、記録班の5つの班で動いていて、女性会員20名は、およそ1ヶ月に1度夜に集まって、すでに回数は10回を数えました。仕事と家庭と諸々の合間に、準備部会以外に班会議も開催し、経験と知恵を出し合って忙しく開催準備をしています。

今回のフープは、全建女(奈良)の開催直前特集として、それぞれの班が今何をしているのか、また、当日への準備状況はどこまで進んだか、班ごとに報告しますので、準備部会に参加できない方も、当日スタッフとして、または、全国の女性建築士と意見交換する奈良の会員として、ぜひ参加してください。

特に、２日目の分科会は、８つのテーマに分かれて、活動報告と意見交換を行いますので、興味のある分科会に参加して、全国の元気な事業活動に触れ、今の風を感じてみてはいかがですか？

参加申込は、6月号の機関誌に同封する申込書に書いてFAXするか、メルアドを登録いただいている方にはメールで送信しますので、返信してください。

参加費は、建築士会会員1000円、会員外2000円ですので、建築士のお知り合いを誘って、多くの皆様の参加をお願いします。

全建女（奈良）基調講演、パネルディスカッション準備

講演班　記録班　　岩城由里子

講演班では、基調講演企画・依頼・接待等を担当します。今回の奈良開催全建女のテーマ「日本の暮らし　豊かな生活文化の再発見」に沿った基調講演者として、岐阜大学名誉教授の渡辺光雄先生にご講演をお願いすることになりました。戦後の日本の住宅の変遷を鑑みながら、日本人独自の暮らしに対する感覚や、和室や日本の住まいの良さの再発見等、これからの住まいを考える上でのヒントをお話しいただけることと思います。

基調講演の後にパネルディスカッションを開催することになり、パネリストとして4名の方にお願いすることになりました。

パネリスト：渡辺光雄氏（基調講演に引き続き）/湯川直紀氏（理学療法士　長寿社会と和室の起居様式）/岡田伸子氏（建築士会代表）/奈良女子大学生（若い方の意見）

また、昨年末に「和室に関するアンケート調査」（女性建築士向け、大学生向け）を実施し、その結果についてもこのパネルディスカッションで公表します。アンケートの結果も交えながら、パネリストのみなさまそれぞれのお立場で「日本の暮らしと豊かな生活文化の再発見」について議論をしていただけることと思います。どうぞお楽しみに。

講演班　石黒、岩城、奥、山下、

記録班では、準備委員会の様子（写真撮影）と当日の写真撮影、記事作成等を受け持ちます。

記録班　栗原、岩城、野村

全建女（奈良）　会場準備
会場班　山本　規子

全国女性建築士連絡協会１日目は、午前中の全国委員長会議と、午後からの講演会、ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ、活動報告等が行われます。この会場に、全国で２校しかない国立女子大学のひとつである、奈良女子大学をお借りすることができました。中でも委員長会議は、国の登録有形文化財の「佐保会館」で開かれ、１階の伝統的な和の空間と、２階大ﾎｰﾙのﾓﾀﾞﾝでｸﾗｯｼｯｸな意匠の空間の調和を楽しんでいただけます。

奈良女子大学　佐保会館

当初の計画では、１日目だけでなく、２日目も奈良女子大学を会場にしたいと考えていましたが、学校行事等の関係で叶わず、２日目の分科会会場は、新公会堂とｼﾙｸﾛｰﾄﾞ館を一体化して平成27年にﾘﾆｭｰｱﾙｵｰﾌﾟﾝされた「奈良春日野国際ﾌｫｰﾗﾑ甍」となりました。回廊で結ばれた２棟の建物には、大小様々な会議室があり、８つの分科会に割り当てられます。各分科会の人数割りは、応募人数を見ながら、机の配列を考えて決定していきます。またここには、本格的な能舞台を持つ、500名収容の能楽ﾎｰﾙまで備わっていて、最終の全体会の会場となります。文字通りの桧舞台（当日は緋毛氈が敷いてあり、ｽﾘｯﾊﾟに履き替えます。）に上がっていただき、分科会ごとに発表を行っていただきます。

奈良春日野国際ﾌｫｰﾗﾑ甍　１階ﾛﾋﾞｰ

能楽ホール

これからの作業としては、ｲﾍﾞﾝﾄ業者さんとの連携をとり、備品の手配を細かく詰めていくこと、各種資料の製作等いろいろありますが、一番肝心なことは、当日参加していただくｽﾀｯﾌの配置と、動きを考えることでしょう。特に２日目は、開場時間の関係から、会場準備、機器のｾｯﾃｨﾝｸﾞのための時間に余裕がありません。また、全体会終了後すぐ、10ｺｰｽに分かれてｴｷｽｶｰｼｮﾝに添乗していくので、残ったｽﾀｯﾌが限られた時間内で終了しなければならない撤収作業は、かなり忙しいことになる予想がされています。滞りなく会議を進めるためというだけでなく、奈良に訪れていただく方々に喜んでいただくためには、一人でも多くの方のご協力が必要となります。全国大会が奈良で開催されるめったにない機会に、是非仲間の一員として参加していただきますようお願いします。

会場班　岡田、西尾、藤山、平島、安田、山本

全建女(奈良)　会議後の交流会

懇親会班　上田壽子

７月遠方から来ていただく全国の女性建築士たちと親しくお話を聞いて親交を温める・・・そんな機会を作らないと中々友人関係にはならないものです。

女性委員会ではまず懇親会の是非を審議して、古都奈良の夕餉のチョイスのあり方を考えるとき、やはり懇親会は必要である・・・という結論に達したのです。ガイドブックにも掲載されている食事処でも７時半オーダーストップ８時にはお店が閉まってしまう・・・という現実を踏まえると、奈良の夕ご飯を提供しなければいけない！と考えました。

まず懇親会会場の調査が始まりました。奈良市内にはいくつかパーティができるホテルがあります。足を運んでお話をお聞きしましたが、まず設定価格が高い！また他の会場を貸していいただいて、ケータリングで懇親会を・・・という考え方もありました。が、結局同じくらいの値段になってしまう。地の利を考え、また価格から検討を重ねた結果、会議場である奈良女子大から遠くもなく、バスでも歩いてでも行ける・・・・ということで選びましたのが『ホテル日航奈良』です。ここはＪＲ奈良駅にも近く、近隣にはホテルも点在します。300 名あまりの女性建築士が集まるわけですが、ホテルも心配なことです。最近は外国からの旅行者が増えて、大都市に限らずこの奈良の地も同じようなことが起こっています。

このホテルの南側は、現在奈良交通のバスの発着場になっています。地下には市営の駐車場もあって交通の便はいいところです。

ホテル外観（西側）

今、懇親会におけるメニューをホテル側と交渉中です。できるだけ奈良の食材を使ってと思うのですが、こういう懇親会の食事はフランス料理が主となっています。こちらが思う和食のようなものを・・・と言う願いがどこまで反映されるか心配ではあります。

ただ暑い時期でもありますので、お蕎麦ではなく冷たい三輪そうめんを、マグロやエビのお寿司ではなく吉野地方の郷土料理でもある柿の葉寿司などをとホテル側と交渉中です。また大和野菜も使ってほしいと要望はしております。

このホテルは平成 10 年（1998）完成でイタリアの巨匠アルド・ロッシのデザインです。日本で設計したホテル３件の一つ、最晩年の作品と言われています。（他の２つは門司にある門司港ホテルと博多にあるホテルイルパラッツオですね）門司港ホテルには宿泊しましたが外部サッシの色使いがよく似ています。なかなかスタイリッシュなホテルです。

昨年女性委員会の忘年会をこちらで開催したことは皆様の下見、味見にもなっていると考えます。
笑顔で全国の女性建築士をお迎えしましょう！

懇親会班　　上田、西尾、藤山、安井

全建女（奈良）　大人の修学旅行

見学班　武市啓子

昨年６月に行われました、第１回会議から私たち見学班の準備はスタートしました。全国から奈良へお越し下さる建築士の方々に奈良の魅力をお伝えしたい、他では体験できない時間を過ごして頂きたいとの思いから厳選された少人数（２０名限定）コース「大人の修学旅行」１０コースを計画致しました。

全建女２日目が行われます「奈良春日野フォーラム甍」をスタート地点に徒歩により奈良を楽しむ散策３コース、バスにて移動の小旅行７コースです。各コースには当日女性委員会より２名＋近畿建築士会協議会女性部会からの応援１名の計３名でご案内の予定です。

「大人の修学旅行」予定コース

①コース：旧平城山街道散策
　奈良少年刑務所（車窓）～奈良豆比古神社～般若寺～若草山山頂

②コース：奈良公園散策
　春日大社～志賀直哉旧居～奈良市写真美術館～頭塔

③コース：奈良町散策
　元興寺～今西家書院～十輪院～奈良基督教会

④コース：美術館への旅
　大和文華館～松柏美術館・旧佐伯邸

⑤コース：古代を偲んで
　平城旧跡大極殿～資料館～若草山山頂

⑥コース：庭園めぐり
　奈良公園～依水園～吉城園～入江泰吉旧居～興福寺

⑦コース：宗教都市とランドスケープ
　大神神社・狭井神社～天理参考館～石上神宮

⑧コース：文明開化と戦国時代を偲んで
　生駒宝山獅子閣～生駒山上スカイライン～朝護孫子寺

⑨コース：斑鳩の里めぐり
　法起寺・法輪寺（車窓）～中宮寺～法隆寺

⑩コース：片桐石州と天平の甍
　慈光院～唐招提寺

（入江泰吉旧居）

現在は最終コース確定に向けて、２月に各コース担当者が行った下見をもとに、タイムスケジュールや経路、費用を確認し、バス会社との見積り交渉中です。そして、忘れてはならないのが、皆様のエキスカーションの楽しみでもある、美味しいお昼ごはんです。こちらも各担当者が足を運び、予約を取りました。建物・街の見学と共に楽しみにして頂きたいと思っております。

（布穀薗　まほろばランチ）

７月２３日１３：００～１７：００までのエキスカーションのお手伝い、まだまだ人数が不足しています。当日だけでも大歓迎ですので、お手伝いをお願いします。記念すべき全建女奈良大会に、全国から参加する女性建築士と交流して、いい思い出づくりをしましょう。あなたの参加をお待ちしております。

（平城宮跡、大極殿）

見学班　　相河、上田、梶谷、武市

女性委員会見学会
『和室三昧の一日旅』に参加して
野村　厚子

早春の一日、『和室三昧の一日旅』の見学会に参加いたしました。

日本ならではの「和室」を、改めてそのかたち、成り立ちから技術面など本来の良さなどを再確認する機会となりました。

まず、宇治に在る松殿山荘を見学しました。始まりは、大正７年　主　高谷宗範（本名：垣太郎）が私財をかけて、この地を手に入れ、十有余年をかけて建てられたということです。当時主流だった草庵式のみでなく、広間でのお茶を広める事を目的とし茶室を建てたものだそうです。

設計は全て高谷宗範自ら行い、形状に合わせて模型を作り建物、池、樹木、石など配し完成させたとの事です。

また、敷地、建物すべてにおいて□と○が、ちりばめられており、それが設計の基本になっていました。「方円」の考え方に基づき「心は円なるを要す、行いは正なるを要す」の思想を形で表現されていました。どの建物も１つとして同じものはなく、老舗の建物の移築も含め奇想天外とも言える自由な作風という印象がありました。「お茶」を目的としていますが、現代でも「和」を取り入れる折のヒントになる事もあるのではと思いました。

お昼は、明治期の日本画家・今尾影年が、建てた邸宅を利活用した京懐石料理店「瓢樹」でいただきました。畳の間にテーブルという使い方を改めて、これも足にやさしくてありだと思いました。

お腹も満たされた後、和室の設えには欠かせない銘木を見に、銘木屋の松文商店さんに伺いました。たくさんの銘木を拝見し、茶室においての基本的な「きまり」について話をお聞きしました。

そのあと、通称「島原」と呼ばれる地区にある「角屋」に向かいました。現在は重要文化財として往時の建物や美術品などが保管されていました。「揚屋」という料亭ならではの江戸末期、維新の頃の歴史の中をくぐり抜けた熱い形跡も拝見することが出来、歴史を感じました。

一日を通して江戸末期→明治→大正→昭和と歴史を学ぶ一日でもありました。また、「和」とは・・・・「和室」「茶室」のみならず、先人たちのその時々の真摯な情熱が「かたち」となって今に存在し、やはりどんな「かたち」になっても「和む」のは、「和室」なのでは・・・・と改めて思いました。

「にっぽん」っていいな・・・・。

私と建築

山野　千惠

私が建築に興味を持ったのは、中学の時だったと思います。父がサラリーマンの大工で、建築に携わったという大阪のロイヤルホテルに連れて行ってもらった事がきっかけでした。あの時の父の喜々とした自信にあふれた表情を今でも忘れません。こんな美しいものを父が造ったのかと、胸がトキメイタことを覚えています。幾度か現場の完成を見せてもらっている内に、私もこんなものを造ってみたいと考えるようになり、私は建築物というより、立体として捉えていましたので、当初は建築ではなく造形芸術の道に進む事になりました。

建築の方へ進むのに遠回りをしたようですが、造形を基礎から学ぶことにより、美的センスが養われたように感じます。また、美大で色彩の勉強もしたので、塗装など色彩を扱うことには苦労せずに済んでいます。お蔭で、ほぼ造りたい色をつくることができるようになりました。

今から考えると中学校時代の恩師のお蔭で、特に美術と数学が好きになり、これが私の建築への第一歩であった様に思います。結局、美大への道を選び、意匠科インテリアを経て長谷川工務店へ就職。そこで不動産に関する知識、営業、接客、電話応対から事務処理等までを、研修や経験で学びました。以降、設計事務所の先生に就いて手書きのドローイング等意匠設計を学び、次は設備設計事務所にて給排水衛生設備設計、電気設計を学び、リフォーム会社を経て、山野建築設計事務所を立ち上げました。当初はただ図面を描いて１枚幾らといった仕事だけでしたが、自宅を自分の手で新築してみようと思い、以前から興味のあった輸入住宅を建築することにしました。

大阪の輸入住宅促進センター「ジェトロ」で資料を集め、寒くて年輪が閉まっている木材が良いと考え、カナダのものに絞り材料の買い付けに行き、船便で２回に分けて日本へ送るようにメール等で指示し、カナダの大工さんに　2×4 で建ててもらいました。英語も堪能ではありませんでしたので、英語のインチサイズにした図面を作成して、コミュニケーションをとりました。最初は大変でしたが、建ちあがっていくと一つ一つ知識が増えていくことに喜びを感じ、この経験を生かせないかと考えるようになりました。最初から最後まで自ら手掛けることで設計の仕事の巾も広がり、設計だけでなく、施工も手掛けるようになりました。

私は設計事務所に勤めていた頃より、先だってオリンピックの国立競技場にも起こった設計計画と施工計画に大きな溝があることに頭を痛めていました。計画段階の積算と実際の積算は大きくかけ離れ、実際建てようとすると施工側より設計変更を余儀なくされます。どうすれば、自分の思うような建物が造れるのか？と悩んだ末、そこは自分ですること。と結論づけ、設計施工とし設計を中心に置いた E.C.K.K. HOME（エコでカインド・人に優しく、地球に優しく・との意味で）を立ち上げました。

これからの私の建築の課題としては、高齢化社会を迎えるにあたり、自分に何ができるのかを考え、いかに社会に役立つことを進めていくかにあります。具体的には、60 才以上の方が住む住宅を 2 世帯、3 世帯住宅へ導き、建て替えるのではなく耐震、省エネ、快適さを兼ね備えた住宅【夏涼しく、冬寒くない家】【地震の心配がない家】【省エネルギーの家】を提案し、変えていくことが必要なのではないかと思っています。まずは、個々の施主様の悩みの声を拾っていくことから始めようと思います。

まだまだ、これからがんばらないといけません。

今後の行事予定

□４月７日（木）
二級・木造建築士試験受付
（１１日まで・奈良県建築士会館）

□４月２１日（木）
理事会（奈良県建築士会館）

□４月２３日（土）
吉野の森見学バスツアーと
生駒支部事業報告会

□４月２７日（水）
住宅無料相談会（奈良県建築士会館）

□５月１２日（木）
一級建築士試験受付
（１６日まで・奈良県建築士会館）

□５月１９日（木）
平成２８年度通常総会

□５月２５日（水）
住宅無料相談会（奈良県建築士会館）

□６月８日（水）
第１期定期講習（奈良県産業会館）

□６月２２日（水）
住宅無料相談会（奈良県建築士会館）

□７月２２日（金）～２３日（土）
第２６回全国女性建築士連絡協議会（奈良）

＊＊＊　編集後記　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

２年間、フープの編集委員を務めさせていただきましたが、今号で終わりとなりました。至らない点も多々あり、御寄稿いただいた方々には大変お世話になり、ありがとうございました。女性委員会主催の見学会や講習会などには、子供がいるためなかなか参加できない中、御寄稿いただいた原稿を真っ先に読ませていただき校正できることは、まるで自分も参加して来たかのように楽しい作業でした。皆さんお仕事やお家のことでご多忙な中、無理なお願いも快くお引き受けくださり、短い締め切りにも間に合うように原稿を出していただくことも多く、本当に頭が下がる思いでした。

「私と建築」は、女性として建築の仕事に係わっておられる方々の生の声を聞かせていただき、感心させられたり、励まされたり、勇気付けられたり･･･ほとんどが原稿だけのお付き合いでしたが、原稿の内容に大変感銘を受け、いつか直接お会いしてお話をしてみたいなあと思った方もたくさんいらっしゃいました。次号からは一般の読者に戻りますが、フープを通して女性会員の皆様の交流がさらに広がることを願っています。

（中辻　千重）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊